

会 議 要 旨

会 議 名	平成29年度第2回 館山市コーラル会議
開 催 日	平成29年10月3日（火）午前10時～午前10時50分
開 催 場 所	館山市役所 本館2階会議室
出 席 者	<p>[委員(敬称略 50音順)]合計10名（欠席 3名）</p> <p>飯島 マルティーンヌ 石井 敏宏 石渡 秀嗣 清本 智美</p> <p>鈴木 ひとみ 滝口 力 土岐 明美 室 厚美</p> <p>本橋 朋子 盛島 岳</p> <p>[市]</p> <p>総合政策部企画課 網城課長、長谷川政策係長、大賀主任主事</p>
公開・非公開の別	公 開
傍 聴 人 数	0名（定員10名）
会議内容 議事進行： 土岐会長	<p>1. 開会</p> <p>2. 企画課長あいさつ</p> <p>3. 議事</p> <p>(1) 男女共同参画に係る市民意識調査の結果について</p> <p>今年度実施した市民意識調査の結果概要について、「資料1」「資料2」にしたがい事務局から報告。</p> <p>【質疑、意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画に関する意識は高まっているが、現実には若干衰退している。各論・詳細にまで踏み込んで議論すべきだと思う。 ・女性は仕事を男性と同じくらいこなし、家事は男性より圧倒的に負担が多い状態である。食事の後片付け・掃除・洗濯は訓練しなくてもやれる分野であり、男性も参画しやすいなどといった各論・詳細に踏み込んでいきたい。 ・子育てについては、家庭内で全て行うことはもはや限界であるため、政治・行政がもっと（制度や施策立案など）がんばらなければいけない分野である。 ・地域活動については、人口減少が進む中、仕事も家事もこなした上で更に・・・というのは無理である。地域活動の負担については、必須事項は行政が担い、必須でないものは、極論でいえば廃止しても良いのではないか。 ・一般的に用語等の認知度が上がってきたことは喜ばしい。

(2) 第4期館山市男女共同参画推進プランの策定について

第4期館山市男女共同参画推進プランの体系案（「資料3」）について、事務局から内容等を説明。

【質疑、意見等】

- ・ 県の計画と体系を揃えたほうが分かりやすいのではないか。
- ・ 「人権の尊重と男女共同参画の意識づくり」が基本目標の1番目にきているが、調査結果でも意識は高まっている傾向が出ているため、順番を後にしても良いのではないか。
- ・ 必要なのは、市（行政）による基盤や環境づくりなのではないか。県の計画では、1番目に環境づくりが出ており、市もそのようにしたほうが良いと感じた。
- ・ 基本目標の2番目「あらゆる分野における男女共同参画の推進」は、政策決定や働く場での男女共同参画推進という意味合いが強いと思う。ここに「まちづくりにおける男女共同参画の推進」が紐付いているが、これはむしろ基本目標の4番目「男女が共に自立して安心して暮らせるまちづくりの推進」にぶら下がるべきだと考える。
- ・ 今回のプランから、計画期間が10年になることもあるため、過去の踏襲という選択肢に捉われず、大幅に見直すことを考えても良いと思う。
- ・ 「意識づくり」の下に、虐待を許さない意識・環境づくり等が盛り込まれているが、こういうことが一番大切だと思う。国・県の「働き方改革」と同じようなことは館山ではできない。まず、意識づくりが根底にないといけないと考える。その点においては、県と違って良いと思う。
- ・ 意識があり、その下に政策があって、行政が環境や基盤づくりを行うものだと思う。男女平等の意識づくりが根底にあると思うので、順番は今まで通りで良いのではないか。
- ・ 高校で子育て支援の講演を行った際、国や県のデータを基に話をしたところ、館山の状況は（国・県などと比べ）かなり異なると感じた。2世代居住率や兄弟数の違いからか、「赤ちゃんを抱っこしたことなんかないよね」と聞いたところ、かなりの生徒が経験していた。国・県との比較の議論になっているが、館山市は館山市の地域性を考慮し、館山市として発信していく必要があると感じた。
- ・ 意識か制度か、という議論になっている。意識が大事ということは認めるが、精神論はあまり通用しないと思う。制度が悪いと絶対に直らないケースが多い。制度を重視し、これを直した方が良いと思うが、一方で、館山市においては制度改正を行える財源や人材が無いのも現実。
- ・ 県と比べて違うというのは、市が独自でしっかり考えていることの証拠で、悪いことではないが、順番はなるべく県と揃えた方が分かりやすくなる。
- ・ 将来像を、「女と男（ひととひと）が・・・」から「多様な個性・・・」に変えたのは、LGBTを念頭においてのことか？

⇒LGBTの人たちのことも考慮してのことである。

- ・ 館山にもLGBTの人はいるが、都市部と違って声すら挙げられない状況。施

策に盛り込むかは別として、どこかにLGBTという文言を入れていただきたい。

- ・施策を具体的に考えていかないと流れていってしまう（計画が意味をなさなくなる）側面もある。
- ・クォータシステムなど、市が積極的に関与し、制度を作る仕組みを作るべき。
- ・この地域や日本全体が、高齢者に甘いのではないか。高齢者・シルバー層が女性の仕事を担っていくシステムが必要だと考える。それにより、女性は仕事もできるし、子どもをもうけることができるかもしれない。このような施策を考えられればと思う。

【出された意見等を踏まえ、事務局から】

- ・本日は体系案を決定しない。
- ・いただいた意見を基に、案をいくつか作成する。
- ・欠席の委員も含め、後日改めて意見照会させていただく。

4. その他

【事務局から】

- ・次回会議については、12月第2週、第3週を検討している。
⇒市議会日程と重ならない日程で調整していく。
- ・次回会議の際には、県の「アドバイザー派遣制度」を活用し、講師から計画に関するアドバイスをいただく予定。詳しいことが決まり次第、お知らせする。
- ・県の男女共同参画推進員の事業案内
 - 11月1日、鴨川市の長狭学園において、中学生に対し「生徒と共に身近な男女共同参画を考えてもらおう」ことをテーマに寸劇を行う。見学希望者は早めに連絡をお願いしたい。
 - 12月3日、イオンモール木更津にて、「南房総ふれあいフェスタ～親子で楽しむワークライフバランス」を開催する。これは、親子で楽しめる工作コーナー、ステージ演奏や各市町のマスコットキャラクターが集結し、あわせて会場に集まった参加者に男女共同参画についてのアンケートを実施するもの。是非ご来場いただきたい。

5. 閉会